

(4) 2004年の世界経済状況からみる経済グローバル化の下における 中国経済と世界経済の相互作用

世界经济与政治研究所 孙 杰

一、2004年における世界経済の特徴と問題点及び示唆

1. 特徴

世界の多くの国と地域の経済成長が回復し、経済成長点が日増しに多元化し、希にみる共同繁栄の局面を呈している；世界全体の貿易が急速に上昇し、経済成長を促進する巨大な力となっている；ドルがユーロに対して値下がりしているが、国際金融市場全体の安定は保たされ、国際資本が穏やかな動きをしている；世界において地域間の提携発展は深いレベルに向かっている。

2. 問題点

弱いドルと高い石油価格からの挑戦；アメリカの巨額な貿易・財政赤字による脅威；金利上げがアメリカ経済に与える不利な影響；貿易摩擦の激化、貿易保護主義が世界経済の成長に与える影響。

3. 示唆

一体化における周期的な要因の増強；貿易提携の重要性；金融政策の協調；構造調整の重要性；地域提携と世界経済の成長；大国経済による影響の増大。

二、2004年における中国経済の特徴と問題点及び示唆

1. 特徴

経済は継続的に急速な発展を遂げ、年平均成長率は9.5%になっている；マクロ的な政策制御が初歩的な効果をあげ、不安要素をいくつか抑制した；経済成長の質と効果がともに上げられる；対外貿易が急速に発展し、貿易総数が1.1万億ドルになる；外国資本の経済成長における役割がますます重要になる；物価水準は上がった後、下がるようになる。

2. 問題点

石油価格の上昇をもたらす要素がまだ解消されない；世界経済成長の減速に影響されて、輸出の増加スピードが去年より減ずる可能性がある；資源制約が依然として厳しく、石炭、電力、石油及び運輸システムの緊張が短い時間内で根本的に緩和されることはない；在庫増加と未返済現象が増加する。

3. 示唆

輸出が経済に大きな影響を与えている；エネルギー需要の上昇；マクロ政策が成熟しつつある。

三、世界経済の中国経済に対する影響の強化

世界全体における経済成長による影響の他、貿易、金融、投資と財政協調の4つのチャンネルで、相互に影響を与えあう。

中国はWTOに加盟することによって、全面的、かつ多次元における開放局面が形成され、経済の国際化が進み、世界経済と一体化する傾向がますます強まる。その具体的な表現として、次のようなことが上げられる。

世界多国籍企業の重要な製造基地になっており、加工業による貿易が対外貿易の主な部分を成している；外部要素による影響がますます強くなり、石油価格の変動が中国経済に与える影響が強く現れる；保護主義の対外貿易に対する影響は著しく、反ダンピング、技術障壁、人民元の値上げ要求などの問題に直面する；世界経済の変動周期に一致するようになる。特にアメリカ、日本、ヨーロッパの三大市場が我が国の輸入、輸出の半分を占めており、それらの経済状況と世界経済の趨勢が我が国の対外貿易と経済成長に大きな影響を及ぼす；地域間の経済金融提携によって、市場における基礎施設の国際化がますます深化する。

四、中国経済の世界経済に対する影響力の増加

経済成長の視点から見ると、中国の経済成長の世界経済への貢献率が拡大しつつあることがわかる。GDPの成長が世界平均水準より高いだけではなく、対外貿易依存度が約35%になっており、アメリカと日本の3倍で、国際市場において本当の意味での開放的な経済体となっている。また、貿易構造の変化と世界経済の共同発展の機会をもたらし、グローバル経済と貿易の発展を促進する。そのため、数多くの国際的機構による2005年における世界経済成長の予測では、中国経済の“柔らかい着陸”の実現が1つ重要な要素として取り上げられている。

市場の視点から見ると、中国の輸出入規模が既に世界で三本の指に入っていて、多くの領域において市場の供給関係と価格に影響を与えていることがわかる。エネルギー、食糧と原材料への依存もますます大きくなり、世界市場から必要な部分を確保するために、従来の世界経済のあり方に影響を与えることになる。

経済政策の視点から見ると、中国の経済政策が国際社会の注目の的になっており、同時に“七カ国首脳会談”の財務次官会議に参加した。これは中国が国際経済政策強調への参加の1つ新たな段階に入ったことの旗印であり、高いレベルからの、今後の我が国の経済政策制定への要求でもある。

総じて、中国が徐々に世界市場に入り込んでいるということが言える。為替相場及び金利などのマクロ政策の運用から、中国は世界経済の中で責任を果たす大国になりつつあり、中国の経済発展が世界経済の発展に密接に影響をおよぼす新たな段階に入っていることがわかる。